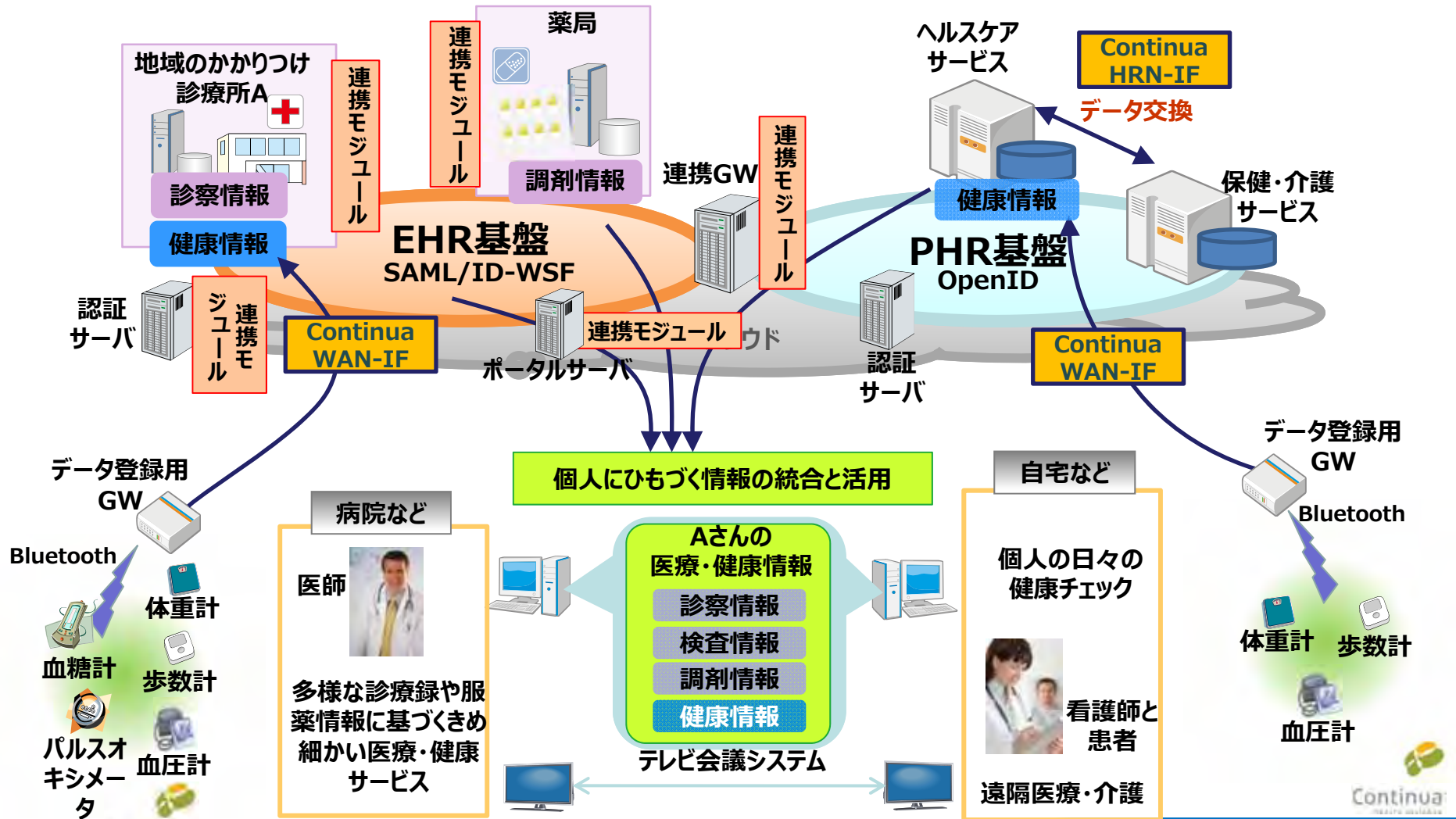


ハイセキュリティな医療情報を扱うEHR基盤と、日々の健康情報を扱うPHR基盤を連携させることで、医療機関等に個別IDで散在する医療情報からライフログなどの健康情報までの安全・安心な管理と流通を実現



- 地域医療連携は、先進的な医療圏での導入が始まっている状況であるが、それぞれが個別事業
- 今後、複数の医療圏での連携などが発生してくると考えられる
 - ◆複数医療圏連携に関するビジネスモデル、マイナンバーとの連携や、ベンダー間連携の仕様の検討などが必要
- ほとんどの地域において、利用者は医者のみであり、看護師や患者は情報閲覧できない
- 医療、介護連携では、セキュリティポリシーの異なるプラットフォームを連携させる必要（EHR/PHR連携）がある
 - ◆実証実験等を通してガイドラインを作成する必要がある
- 今後の発展に向け、国としての統一的な方針策定が必要
 - ◆マイナンバーとの連携や既存システムを含む全国での医療圏間の連携方針やセキュリティポリシー策定等
 - マイナンバーは国、自治体がシステム運用者。地域医療連携は医師会や協議会等が運用者。異なる運用者間をつなぐ方針が必要
 - ID認証・情報連携に関するプロトコル（例えばSAML/ID-WSFなど）の規定が必要
- データの二次利用は始まったばかり